

神奈川県立金沢養護学校



学校だより

第51号 平成23年5月31日

キャリア教育 (6)

副校長 渡邊昭宏

未曾有の大津波と放射線に襲われ被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今回の東日本大震災は地震の直接的な被害のなかった神奈川でも、帰宅困難者、計画停電、ガソリン不足、食料・飲料水不足といった想像以上の影響を受けました。ひねれば出る、押せば点くといった日常が当たり前のことではなくなり、次々に商品が消えていく陳列棚を見て不安にかられ買い溜めに走った人も多かったと思います。

私たちは障害者が置かれた立場や困り感を知ろうとして、よくアイマスクをつけて白杖歩行をしたり車椅子に乗って街に出たりしてみますが、発達障害や自閉症の人々の立場については擬似体験をしてきませんでした。しかしこの大震災は、通信手段が遮断されコミュニケーションがとれない焦りや恐怖、解決の見通しが持てず明日の予定もわからない不安や混乱、日常繰り返し行われていた当たり前のことができないイライラや不満を、否応なしに私たちに体験させました。実はこうした困り感を、発達障害や自閉症の人々は日々の生活のなかで日常茶飯事に味わっているといえます。こだわりやパニックに至るかどうかについても、非常時や群集心理のなかでは、誰にでも可能性があるのです。

そういう意味で今回の大震災は私たち一人ひとりの人生に、これまで持ち合わせていなかった新たな**キャリア(経験からの学び、教訓)**を積ませました。キャリア＝進路というイメージが強いとは思いますが、「自分らしく生きていかれるようにしていく」「なりたい自分に近づいていかれるようにしていく」ためにも「非常事態の際に最低限必要な生きる力をつけておく」ことは、生命にかかわる重要なキャリア教育であると考えます。

災害はいつどこで起きるかわからず、そこに家族や担任がいるとは限りません。「指示に従って避難する」というのは、指示の内容がわかる(情報活用能力)そばにいる誰かと一緒に行動できる(人間関係形成能力)めざす場所やその後に行なければならないことがわかる(将来設計能力)誰の言うことを信じてどうすればいいのか決められる(意思決定能力)といった総合的な力です。特に登下校中はスクールバスの介助員、送迎ボランティア、通学支援員、駅員、乗務員等と行動をともにすることになります。無事に避難場所にたどり着いても今度はその瞬間から「待つ」「勝手な行動をしない」「順番を守る」といったことを強いられます。こうしたことができれば「生きる力」ですが、無理せずに**障害に応じた情報提供・合理的配慮**といった支援をいち早く受けることが大切です。そのためには、障害を隠すのではなく、配慮事項や薬のこと等を記載した愛の手帳のコピーやカード等をお子さん自身がすぐに誰かに見せて「助けて！」と**アピール**できるようにしておくことが「生きる力」になると思います。混乱のなかで保護者からはぐれたり、保護者が負傷して動けず誰かに託さねばならなくなることも想定しておきましょう。(次回につづく)